

第3節 自分の生き方を選択・決定する力を身に付ける

現在、ニートやフリーターが社会的問題となっており、人が社会の中で生きていくために、他との関係の中で自分自身をしっかりと見つめてアイデンティティーを確立していくことがますます重要になっています。

このため、子どもの発達段階に応じて、しっかりとした勤労観・職業観を育みながら、自分の生き方を選択・決定する力を身に付けることができるよう、キャリア教育を推進します。また、社会の変化や価値観の多様化に伴って、子どもの興味・関心の幅が広がる中、アイデンティティーを確立し、個性や能力を伸ばすことができるよう、子どものニーズに合わせた学習機会の拡充を図ります。さらに、生涯の各段階における県民の学習意欲に適切に対応することができるよう、様々な学習機会の充実・提供に努めます。

(3) 自分の生き方を選択・決定する力を身に付ける

キャリア教育の推進
産業教育の充実
多様な学習機会の確保
生涯の各段階に応じた学習機会の充実

項 目	具体的施策の方向
キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育の推進 児童生徒一人ひとりが、夢や目的を探し求め、生き方を考えるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択・決定していくことができる能力や態度を育てます。 ▶ 職場体験・インターンシップ等の機会の拡充 働くことの意味や尊さを考えさせるとともに、しっかりとした勤労観・職業観の育成を図るため、職場体験やインターンシップなどの体験活動の機会の拡充に努めます。 ▶ 盲・聾・養護学校高等部における進路指導の充実 就労体験や教育活動全体を通して、生徒が社会の一員として主体的に活動し、自立し、社会参加するための基盤となる生きる力を培うとともに、就労連絡協議会、福祉・労働機関等との連携の下、職業教育や進路指導の充実に努めます。
産業教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 特色ある産業教育の展開 経済のグローバル化や急激な技術革新による産業構造・就労形態の変化を踏まえ、本県産業の発展を支える人材の育成に向け、産業界や高等教育機関等との連携を図りながら、生徒の多様な学習要望に応える特色ある産業教育が展開できるよう教育内容・方法の改善・充実に努めます。
多様な学習機会の確保	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 外部講師活用 社会人などの豊富な知識・技術や経験を有する外部講師の活用を通して、県立高等学校における専門的な教育内容の充実に努めます。 ▶ 学校・学科の適正配置の推進 生徒一人ひとりが、それぞれの興味・関心、能力・適性、進路希望等によって主体的に学校が選択できるように、魅力ある高等学校を配置します。また、普通科、普

通系専門学科、職業系専門学科及び総合学科のそれぞれの魅力を生かし、地区ごとに魅力ある学科を適正に配置します。

- ▶ 特色ある学校づくり
地域や学校の実態に応じ、家庭・地域社会と連携して創意工夫を生かした特色ある教育、学校の個性や独自性を発揮した特色ある学校づくりを推進します。
- ▶ 選択学習の幅の拡大
生徒の選択の幅を拡大し、生徒の興味・関心や進路希望等に応じ、個々の能力を十分に伸長する教育の充実を図るため、学校設定教科・科目を設けることや資格取得をめざした科目を設けることなどにより特色ある教育課程の編成に努めます。
- ▶ 高大連携の推進
生徒の視野を広げ、学習の選択幅を拡大するとともに、自ら学ぶ意欲の向上をめざし、英語やスポーツ、福祉、情報など多様な分野において高校と大学との連携を積極的に支援します。
- ▶ NPOとの連携
幅広い分野での学習ニーズに応えるため、NPOとの連携に努めます。
- ▶ 外部専門機関との連携
高いレベルでの教育活動を推進するため、専門的な技術やノウハウを有する外部専門機関との連携に努めます。
- ▶ 中山間地域の教育の充実
豊かな自然を活用した学習体験、インターネットを活用した学習の充実、都市部にある学校との交流などを通じ学習機会の拡充に努め、地域の文化や伝統に根ざした特色ある学校づくりを推進します。
- ▶ 小・中・高等学校における障がいのある児童生徒やLD、ADHD等に対する教育の充実
特別支援コーディネーターを中心に、小・中学校の通常の学級や高等学校に在籍する障がいのある児童生徒及びLD、ADHD等の特別な支援を必要とする児童生徒一人ひとりのニーズに応じた教育を推進します。

生涯の各段階に応じた学習機会の充実

- ▶ 学習機会の充実
多様化・高度化する県民の学習需要に対応するため、学習圏の広域化を図るとともに、県民カレッジを推進するなど学習機会の充実を図ります。
- ▶ 全国生涯学習フェスティバルの開催
広く国民一般に対し、生涯学習に係る活動を実践する場を全国的な規模で提供する等の全国生涯学習フェスティバルを平成20年度に本県において開催し、国民一人ひとりの生涯学習への参加を促進し、もって生涯学習の一層の振興を図ります。
- ▶ 青少年教育の充実
学校外活動の拡充、多様な学習機会の提供や社会参加活動の推進、青少年団体の育成や指導者の養成など、県

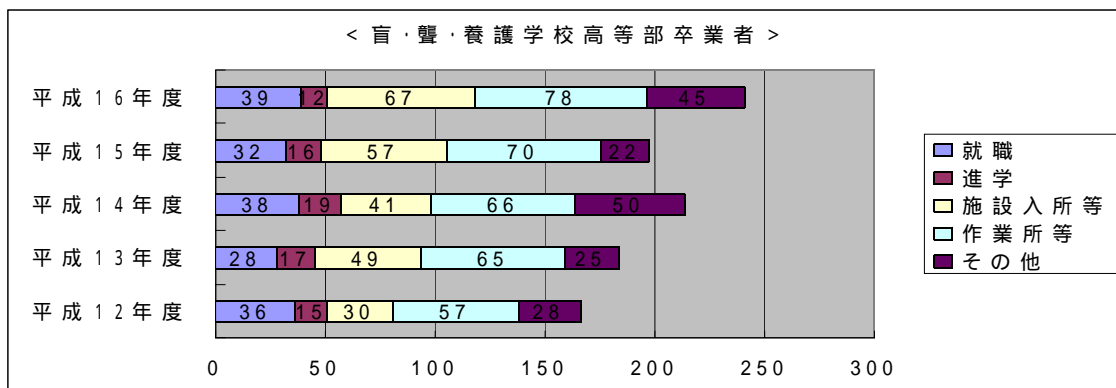
と市町村が連携を図りながら青少年教育の充実に努めます。

- ▶ 成人及び高齢者の学習の促進
現代的課題や地域の実情に応じた学習課題に関するより専門的な学習内容を備えた学習機会を提供することにより、成人及び高齢者の学習や積極的な社会参加活動の促進に努めます。
- ▶ リカレント教育の充実
社会人・職業人に対するリカレント教育の普及・啓発を積極的に行うとともに、より高度で専門的な学習機会を提供できるよう高等教育機関や民間教育機関等に働きかけ、連携・協力のための条件づくりに努めます。

〔語注〕（第3節 自分の生き方を選択・決定する力を身に付ける）

ニート (Not in Education, Employment or Training)	1999年にイギリスの内閣府が作成したBridging the Gapという調査報告書がその言葉の由来となっており、いわゆる「学校に通っておらず、働いておらず、職業訓練を行っていない者」のことを通称している。
キャリア教育	キャリア教育は、子どもたちが「生きる力」を身に付け、明確な目的意識を持って日々の学業生活に取り組む姿勢、激しい社会の変化に対応し、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力やしっかりとした勤労観、職業観を身に付け、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟にかつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくことができるようにすることを目的としている。
アイデンティティー (identity)	自分とはこのような人間であるという明確な存在意識を言う。自己同一性、自我同一性、主体性、身元など様々な訳語があるが、わかりやすい訳語がないため、近年は「自分のアイデンティティーを主張する」などと、そのまま使用する例が多い。
インターンシップ (internship)	生徒や学生が在学中に、産業の現場などで自分の学習内容や進路などに関連した就業体験をすること。
特別支援コーディネーター	県内全ての公立小・中学校、県立高等学校に設置されている特別支援教育を推進するための校内委員会の企画・運営や校内の教職員との連絡調整、関係機関との連絡調整を主な役割としている。 小・中学校、養護学校では、特別支援教育コーディネーターとよんでいる。

進路状況（盲・聾・養護学校高等部）（特別支援教育グループ調べ）



（注）進学：専攻科、大学、職業能力開発校、各種学校等 施設入所等：授産施設、更正施設等
その他：病院、家庭生活等